

14 津軽中学校区

◆ 地区の学校：岩木小学校、百沢小学校、津軽中学校

＜児童生徒数の推計＞

学校名	H22		H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29		H30		H31		H32		H33	
	C	児童数	C	児童数	C	児童数	C	児童数	C	児童数	C	児童数	C	児童数	C	児童数	C	児童数	C	児童数	C	児童数	C	児童数
岩木小学校	15	445	15	425	15	433	15	416	16	433	15	428	15	432	15	438	14	408	14	415	13	388	13	375
百沢小学校	4	37	4	36	3	28	3	27	3	24	3	21	3	15	3	16	3	15	3	12	3	12	3	12
津軽中学校	10	340	10	328	11	322	9	301	9	274	8	255	7	219	7	193	7	198	7	199	8	230	6	204

※Cはクラス数

◆ 津軽中学校区の検討課題と対応案

【短期】 岩木小学校と百沢小学校の統合について

百沢小学校は、現在全ての学年で複式学級を編制し、今後も複式学級は続くことが見込まれます。小規模校のよさがありますが、学校教育において、子どもたちが集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくことがより重要と考えます。

百沢小学校と岩木小学校は、同じ津軽中学校区の小学校として、これまで地域との連携を大切にしながら様々な小中連携の推進事業に取り組んできました。

このような実情を踏まえ、一定の集団規模による教育環境を確保するために、岩木小学校と百沢小学校の統合について検討を開始する必要があると考えます。

【短期】 駒越地区と真土地区の学区外就学について

岩木小学校・津軽中学校区（旧岩木町）の駒越地区と真土地区については、市町村合併前と変わらず岩木小学校・津軽中学校が進学先（指定校）となっていますが、それぞれの地区の中には、城西小学校又は西小学校・第二中学校（いずれも旧弘前市の学校）が近い場合があります。

当該地域に住んでいる保護者の中には、合併により同じ行政区になったので近い方の学校に通わせたいという要望もあることから、学区外就学の許可基準による特別許可区域として、当該地区に住んでいる児童生徒の保護者が希望する場合には、通学時の安全面や身体的な負担の軽減などを考慮し、城西小学校又は西小学校・第二中学校に通学することができるよう、基準の見直しを検討する必要があると考えます。

【短期】 鼻和地区と愛宕地区の学区外就学について

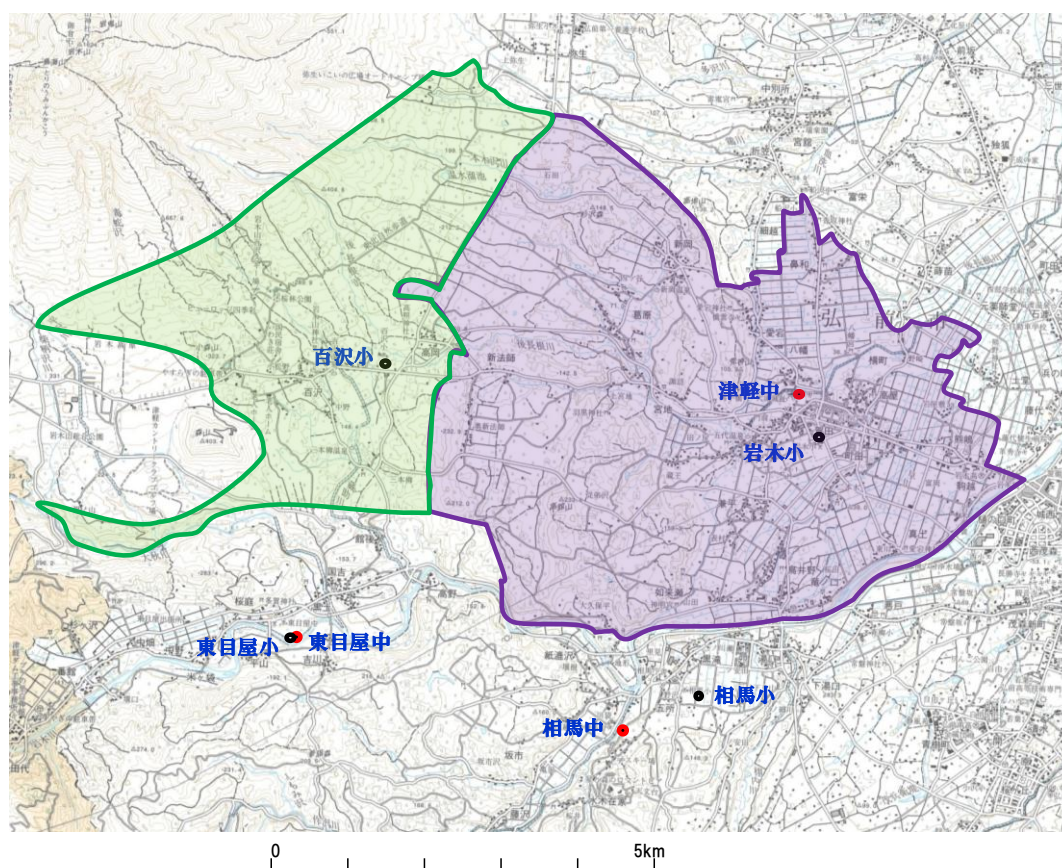
船沢中学校区（旧弘前市）に隣接する鼻和地区と愛宕地区（旧岩木町）については、市町村合併前と変わらず岩木小学校及び津軽中学校が進学先（指定校）となっていますが、それぞれの地区の中には、船沢小学校や船沢中学校が近い場合もあります。

当該地区に住んでいる保護者の中には、合併により同じ行政区となったので近い方の学校に通わせたいという要望もあることから、学区外就学の許可基準による特別許可区域として、当該地区に住んでいる児童生徒の保護者が希望する場合には、通学時の安全面や身体的な負担の軽減などを考慮し、船沢小学校及び船沢中学校に通学することができるよう、基準の見直しを検討する必要があると考えます。

【中期】 岩木小学校と常盤野小学校の統合について 津軽中学校と常盤野中学校の統合について

常盤野小・中学校においては、児童生徒が集団の中で学ぶ教育環境を確保するため、また生徒が専門教科の免許を持った教員による指導を受けるために、短期において前述の取組を考えます。しかし、児童生徒を確保していくことを考えていく必要もあります。

このため中期では、短期の取組を検証しながら、さらには今後の児童生徒数や地域の事情などを踏まえて、統合の必要性について検討を開始していく必要があると考えます。



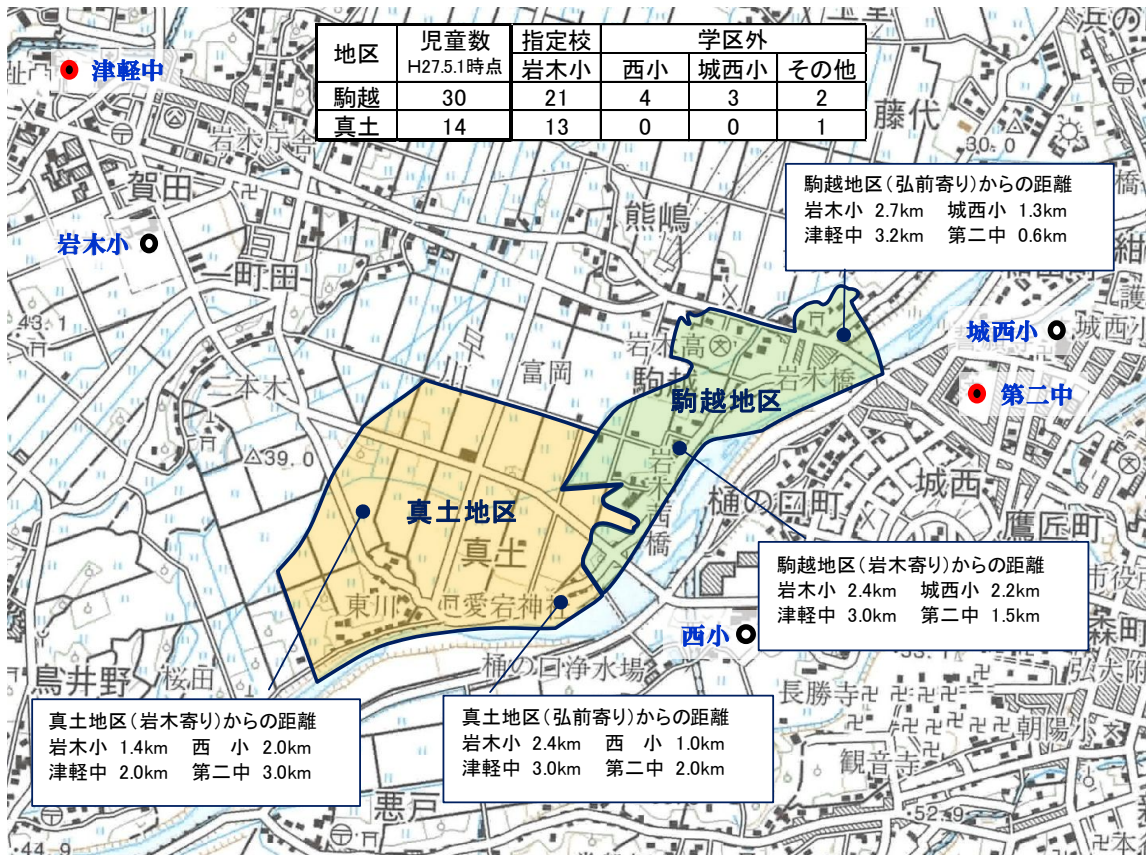
<小・中学校の区域>

学校名	区域（大字名）
岩木小学校	駒越、真土、龍ノ口、烏井野、如来瀬、兼平、一町田、熊嶋、高屋、賀田一丁目、賀田二丁目、賀田、八幡、鼻和、五代、宮地、新岡、葛原、新法師、横町、愛宕
百沢小学校	高岡、百沢の一部
津軽中学校	岩木小学校、百沢小学校の学区と同じ

<学区外通学が認められている住所>

な し

※「【短期】駒越地区と真土地区の学区外就学について」の参考図



※「【短期】鼻和地区・愛宕地区の学区外就学について」の参考図

